

静岡赤十字病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

承認番号 研究課題名	No. 2018-16 日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会 「本邦における若年子宮体がん妊孕性温存治療についての調査研究」
当院の実施責任者研究 及び職名	産婦人科 副部長 市川義一
他の研究機関および 各施設の研究責任者	久留米大学医学部産婦人科 教授 牛島 公生
研究期間（西暦）	対象：2009年1月1日～2013年12月31日に当院で若年子宮がん妊孕性温存治療を受けられた患者 (研究期間：研究実施許可日～2019年3月31日)
研究の目的	<p>子宮体がんの標準治療は手術による子宮摘出ですが、妊娠を強く望む若い女性で子宮内膜に限局していると思われる高分化型類内膜癌、および子宮内膜異型増殖症（類内膜上皮内腫瘍）においては、子宮を切除せず黄体ホルモンによる子宮温存治療も行われる場合があります。しかしながら、本邦における若年子宮体がんの子宮（妊孕性）温存療法の実態についての詳細は不明です。</p> <p>本研究では、久留米大学産婦人科を研究事務局として、日本産科婦人科学会の婦人科腫瘍登録を行っている施設を対象に診療内容を調査し、治療の効果やその後の管理の方法、温存治療の本来の目的であるその後の妊娠についてなど多くの情報を集めます。全国規模のかつてない多数例の情報の集積により、治療適応の拡大の可能性を探ると同時に、安易な温存治療がなされていないかどうかを検証し、治療の質の担保と安全な普及についての提言を行うことを本研究の目的としています。</p>

<p>研究の内容</p>	<p>参加施設で上記対象期間の間に若年子宮がん妊孕性温存治療を受けられた患者さんの臨床データを集めます。特に新たに患者さんにご提供いただくものはありません。研究の成果は学会発表や論文として公開されます。日本産科婦人科学会のホームページでもみることができます。</p>
<p>個人情報の取扱い</p>	<p>本研究で取り扱う患者さんの情報は個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものか一切わからない形で参加施設から登録施設に提供され、登録されます。患者さんの情報と個人情報を連結させることはありません。</p>
<p>問い合わせ先 (拒否等受付窓口)</p>	<p>【研究担当者】 所属：静岡赤十字病院 産婦人科 氏名：市川 義一 住所：静岡県静岡市葵区追手町 8-2 電話：054-254-4311</p>